

## 商工業振興（中小企業経営革新事業費補助、 M-ステ産業競争力強化事業費補助）

アナ： 「市長が語る 2017 三島」第 11 回の今日は「中小企業経営革新事業費補助金」と「M-ステ産業競争力強化事業費補助金」などについてお話を伺います。  
豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： まず初めに、中小企業経営革新事業費補助金とはどのようなものでしょうか。

市長： この補助金は、新商品や新サービスの開発、商品の新たな販売方式の導入等、経営革新計画の実現に向けて取り組む中小企業者等を支援するものです。

静岡県に経営革新計画を承認された市内の中小企業者に対し、その計画の実施に必要な経費の 2/3 以内を上限 100 万円として補助します。平成 25 年度に三島商工会議所と三島市の協働で立ち上げた、みしま経営支援ステーション（通称 M-ステ）が相談窓口となっています。

アナ： なるほど。昨年度はどのような業種の企業がこの補助を受けたのでしょうか。

市長： 昨年度は、食料品製造業をはじめとした各種製造業のほか、電子通信サービス業、経営コンサルタントなど、全部で 13 社がこの補助金を活用し、革新的な商品やサービスの開発に取り組みました。

アナ： 13 社という多くの事業所が利用したとのことですが、補助金の申請には県の計画への承認が必要とのこと、ハードルは高くないのでしょうか。

市長： M-ステでは、県への計画申請の段階から、中小企業診断士などの相談員が、その事業所と二人三脚で伴走するように相談に応じております。また、同じ会社であっても複数の計画が県に承認されれば、それぞれに対して個別に補助金が交付されます。新商品や新しいサービスのアイデアをたくさんお持ちの中小企業者の方々にぜひ活用していただきたいと思っております。三島市もそのように頑張っている中小企業を全力で支援していきたいと考えております。

アナ： この中小企業経営革新事業費補助金が中小企業者の皆さんを後押しする心強い支えになるといいですね。ぜひ積極的に活用していただき、新たな可能性に向けて前進して欲しいですね。

続いて、M-ステ産業競争力強化事業費補助金についてお話を伺います。これはどのような補助でしょうか。

市長： こちらの補助金は、M-ステに対する補助なのですが、M-ステによる支援の結果、業績が好転するなどの実績を上げた企業に対し「M-ステ大賞」の表彰をしたり、経営に役立つ著名人のセミナー実施などの各種事業をM-ステが行うことによって、中小企業者の競争力を底上げする狙いがあります。

アナ： 今年度この M-ステで行われている事業について、もう少し詳しく教えてください。

市長： はい。経営相談はもちろんのこと、引き続き女性就労相談も行っています。

創業支援については、国から認定を受けている創業支援計画に基づく「創業応援塾」を開催し、創業の心構えや事業計画等について、全4回の講習を行います。広報みしま6月1日号に詳細が掲載されておりますので、創業を検討されている方は是非お申込みください。

その他、M-ステ大賞では、新商品、新サービスの開発や販路の開拓などの優秀なビジネスプランを表彰し、副賞の支援金によってプラン実現に向けた助成をします。プランの募集については、広報みしま7月15日号での掲載を予定しておりますので、事業者の皆さんには、ぜひご応募いただきたいと思っております。

アナ： なるほど。M-ステの相談窓口を多くの企業の皆さんに活用していただくことで、三島の企業が元気になり、三島の商品を多くの方に知ってもらえるといいですね。

市長： そうですね。さらに三島市は、平成27年度に中小企業振興条例を制定し、28年度に県内で初めて、条例に位置付ける審議会「がんばる中小企業応援会議」を設置しました。そして、昨年11月には、中小企業振興施策に関する答申をいただき、29年度の施策にも反映しております。この中でM-ステでは、今年からの新たな試みとして、「専門家チーム派遣事業」を実施します。この事業は、専門的な知識を持つ女性フリーランス等をチームで中小企業に派遣し、新製品開発や販路開拓等を支援するもので、既存企業の盛業化が期待できます。

この他にも、急速に変化する産業振興分野のトレンドにスピーディーに対応できるように、常に世の中の動きにアンテナを高くしながら、その時に良いと判断した施策を推進していきたいと思っております。

アナ： 私も三島市民として期待しています。

豊岡市長、本日はどうもありがとうございました。

市長： ありがとうございました。